

令和 2 年度入学者選抜学力検査問題

(後期日程)

小 論 文

〔 人間社会学域
人文学類 〕

(注 意)

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は本文 7 ページです。答案用紙は 4 枚あります。
- 3 答えはすべて答案用紙の指定のところに、横書きで記入しなさい。
- 4 アルファベット文字や数字は、1 マスに 1 字で記入しなさい。
- 5 マス目のある下書き用紙の様式は 20 字×30 行(600 字)です。
答案用紙の 1 行あたり字数や総字数の指定とは異なる場合があるので、注意して利用してください。
- 6 問題紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

I 以下の文章は、人間の子どもが言葉を身につける過程の複雑さについて書かれた、心理学者、今井むつみの『ことばの発達の謎を解く』の一部を抜粋したものです。この文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

問1 下線部(1)に挙げられた言語の3つの基本的な性質以外に、人が使う言語にはどのような性質があるか、また、それらの性質は人以外の動物が持つさまざまなコミュニケーション手段でも見られるかについて、300字以内で説明しなさい。複数の特性を挙げながら検討すること。

問2 下線部(2)について、日本語を身につけようとしている赤ちゃんに「ウサギ」という言葉の意味を教える場合、外国人への教え方に沿った方法にはどのような問題があるか答えなさい。また、その他の方法としてどのようなやり方が考えられ、それにはどのような利点と問題点があるのか、合わせて600字以内で答えなさい。

運命の時が来ました。「奇跡の人」という舞台や映画の有名なシーンなので、みなさんの中にも知っている人は多いでしょう。四月五日のことです。サリバン先生※1は井戸小屋にヘレン※2を連れて行き、水をくみ上げている間、ヘレンには水の出口の下にコップを持たせ、冷たい水がほとばしり、コップがいっぱいになった時、ヘレンの自由な手の方に「w-a-t-e-r」と綴りました。サリバン先生は書いています。

「その単語が、たまたま彼女の手勢に勢いよくかかる冷たい水感覚にととてもびっくりしたことが、彼女をびっくりさせたようでした。彼女はコップを落とし、くぎづけされた人のように立ちすくみました。ある新しい明るい表情が顔に浮かびました。彼女は何度も、「water」と綴りました。それから、地面にしゃがみこみ、その名前をたずね、ポンプやぶどう棚を指さし、そして突然ふり返って私の名前をたずねたのです。私は「Teacher」と綴りました。ちょうどそのとき、乳母がヘレンの妹を井戸小屋に連れてきたので、ヘレンは「baby」と綴り、乳母を指さしました。家にもどる道すがら彼女はひどく興奮していて、手にふれる物の名前をみな覚えてしまい、数時間で今までの語彙に三十もの新しい単語をつけ加えることになりました。」

この時、ヘレンに何が起きたのでしょうか。彼女は理解したのです。指文字は「ことば」で、すべてのモノには名前があり、それを表すのが「ことば」だということを。ヘレンはそれ以降どこに行っても名前を知らないモノすべての名前を知りたがり、周りの人に自分の知っていることば(綴り)を教えたがるようになりました。そして、今まで使っていた合図や身振りをやめてしまったとサリバン先生は書いています。

この話は、赤ちゃんが言語を学習するために何が必要かということについて、非常に大切で深いことを教えてくれています。「ことば」を学習することとは、単にモノや動作と音のかたまり(あるいはヘレンの場合は文字)の結びつきを機械的に覚えるだけでは不十分なのです。言語をすでに身につけた私たちは、言語に関するさまざまな事実を当たり前だと思っています。「すべてのモノや動作には名前がある」⁽¹⁾「モノや動作の名前の一つ一つは音のかたまりで表される」⁽²⁾「自分の伝えたいことは単語を組み合わせることで表現することができる」というような基本的なことは、言語の役割としてほとんどの人は意識したことがないと思います。しかし、ヘレンの例は、言語を習得するためには、赤ちゃんはこのようなことを基本的な性質として理解しなければならないということを私たちに教えてくれます。

これらのことを理解していないとほんとうの意味でことばを持つことはできないことは、チンパンジーの言語獲得の研究からもわかります。

チンパンジーにことばを教えようという研究が以前はかなりたくさんありました。研究者たちは人が使うような音によることばではなく、絵文字のようなものを記号として使い、リンゴやバナナや靴など、身近にあるさまざまなモノの名前を記号で教えようとしていました。ずいぶん時間はかかりましたが、チンパンジーたちは100~200 くらいの記号をモノに対応づけることを覚えました。ただし、実験室から出た時に、人間の子供とは違って覚えた記号を自分から使って人(自分の世話をしてくれる飼育係や研究者)とコミュニケーションをとろうとはしませんでした。「バナナちょうだい」と訴えるために絵文字を指さすなどということはしなかったのです。

教えられた記号が一つ一つのモノの名前であり意味を持つものであること、記号を組み合わせることで自分の意思を他者に伝えることができることなどの言語の基本的な

特性を、チンパンジーはどうしても理解することができなかったのです。かたや人の子どもはとにかく言語を使いたがります。しかも、ジュースが欲しい、ごはんが欲しいという欲求を伝えるためというよりは、自分の知っていることを表現し、他の人に伝えるために。ヘレンも「water 事件」の後、どこに行っても名前を知らないモノすべての名前を知りたがり、また、周りの人に自分の知っていることば(綴り)を教えたがるようになったと手紙にあります、耳の聞こえる子どももまったく同じです。

ヘレンのエピソードやチンパンジーに言語を学習させようとした研究の結果は、人の子どもがことばを学習するということは、単に対象とことばの間の対応づけを機械的に学ぶことではないことを私たちに教えてくれます。

では、人の子どもがことばを覚えていくには、何を知る必要があるのでしょうか？ また、どのように覚えていくのでしょうか？

ヘレンは“water”を端緒にことばの世界への扉を開き、ものすごいスピードでたくさんの単語を覚えていきました。でも実は、耳が聞こえる子どもにとっても、単語の意味を覚えるということはそんなに簡単なことではないのです。

サリバン先生は、ヘレンは“mug”(深めで大ぶりのコップ。アメリカでは普段使いでは cup ではなく mug でミルクやコーヒーを飲みます。)”“milk” “drink”をよく混同したと手紙で書いています。考えてみると、これは無理もないことです。普段の生活の中ではミルクはたいていマグに入れられて出されるし、出されれば飲みますよね。その時、ある時には m-i-l-k と綴られ、別の時には m-u-g、また別の時には d-r-i-n-k と綴られます。マグに入っているミルクを飲むという状況の中で三つのことばを教えられたら、どのことばが状況のどの部分に対応するのかを見極めるのはとても難しいと思いませんか？

(中略)

そもそも単語の意味を教えることはできるのでしょうか？ 日本語を知らない外国の人や赤ちゃんにどうやって日本語の単語の意味を教えるか、考えてみてください。例えば「ウサギ」「コップ」「みどり」。大人の外国人に教えるのは簡単そうですね。教える相手が英語を理解し、みなさんが英語を話せるのなら。例えば“Usagi (koppu/midori) means ‘rabbits’ (‘cups’/‘green’)”と言えよだけです。その時、

もちろん、相手の人は rabbit, cup, green の意味を英語でなら知っているということ
を前提にしているわけです。一方、赤ちゃんに教える時はどうでしょう？
(2)

(今井むつみ『ことばの発達謎を解く』，筑摩書房，2013 年，40 ページから 47
ページ。問題作成の都合上，原文の一部を改めた。)

[出題者注]

※1 サリバン先生：アン・サリバン(1866-1936)。ヘレン・ケラー(次項参
照)の家庭教師。視覚・聴覚・発話に障害のあったヘレンに対して，忍耐
強くしつけと教育を行った。

※2 ヘレン：ヘレン・ケラー(1880-1968)。アメリカの教育家、^著作家。
1 歳 7 ヶ月時にかかった高熱が原因で視覚と聴覚に重度の障害を負い，さ
らに話すことも困難になり三重苦を背負った。6 歳のときに家庭教師に迎
えたアン・サリバンの懸命な教育によって，モノや動作には名前があり，
それを表すのが「言葉」であることを指文字との対応づけを学ぶことを通し
て理解することができた。言葉を身につけたヘレンは今のハーバード大学
で学び，多くの著作を残した。

Ⅱ 以下の文章は、沖縄の作家、目取真 俊(めどるま しゅん)の著作『沖縄「戦後」ゼロ年』の一部です。この文章を読んで、問 1、問 2 に答えなさい。

問 1 下線部(1)について、戦争を「殺す側の視点」で見ってしまう危険性とはどのようなものか。「殺される側の視点」と対比させながら、300 字以内で説明しなさい。

問 2 下線部(2)について、より「低い視点」から戦争を考えることの現代的意義に関して、あなたの考えを 400 字以内で説明しなさい。

沖縄では米軍の撮影した映像を集め、編集して映画やビデオにする「一フィート運動」が取り組まれてきました。そうやって制作された映画・ビデオの中で、米兵が火炎放射器で砂糖キビ畑を焼いたり、防空壕^{ごう}の中に噴射する場面が出てきます。砂糖キビ畑であれ、洞窟の中であれ、火炎放射器を噴射したら、火だるまになって飛び出してきたり、火に包まれてのたうち回って死んだ住民がいたはずです。火炎放射器の火に追われて、キビ畑から逃げ出した住民や日本兵を米軍は狙い撃ちしたはずですし、黒焦げになって煙を噴き出している死体がいくつもあったはずです。そういう焼け焦げの死体を写した写真はありますが、火に包まれる住民や日本兵の姿を撮った映像は見たことがありません。仮にあったとしても、残虐すぎるということで公開はされないかもしれません。

そうやって、焼き殺される住民や日本兵の姿は目にしないまま、火炎放射器を噴射する米兵の後ろ姿や戦車だけを見て沖縄戦を認識するというのは、とても怖いことだと思います。それは知らず知らずのうちに、戦争を米軍の視点、殺す側の視点⁽¹⁾で見ってしまう危険性を持っています。カメラの位置を考えると、火炎放射器を噴射する米兵や戦車の背後や斜め後ろから撮っている映像がほとんどです。火は手前から向こうに噴射される。だからこそ、私達は恐怖もなくその映像を見ることができるのです。

けれども、洞窟の中やキビ畑に隠れていた住民や日本兵は、どういう視点で火炎放射器の火を見ていたのでしょうか。近づいてくる米兵が火炎放射器の筒先を向ける。恐怖と緊張に見開かれた住民や日本兵の目に赤い光が見えた次の瞬間には、熱

風とともに火の塊が迫ってきて、眼球は焼け、全身は火に包まれ、熱風を吸い込んだ肺も焼けて、呼吸もできずにのたうち回っていたはずです。そうやって殺された人の目に映った最後の光景を想像することなく、米軍が撮った映像を漫然と見るだけなら、攻撃する軍隊の視点を内在化してしまう危険があると思います。

それは火炎放射器の場面だけではありません。米兵が銃撃する場面や戦車が進撃する場面、壕に爆弾を投げ込んだり、艦砲射撃で島を砲撃したり、突っ込んでくる特攻機を撃墜する場面など、あらゆる場面と言えます。イラク戦争のときに米軍のインベツト(埋め込み)取材※1が問題となりましたが、映像がどのような視点から撮られているのか、何が写され、何が写されていないのか、という問題は、沖縄戦の記録写真や映像にも共通している問題なのです。

ですから、そのような米軍が記録した写真や映像を見る際には、沖縄の住民の視線で見直し、検証することが不可欠です。そのときに力となるのが、住民の戦争体験の証言記録です。沖縄には県や市町村、^{あざ}字※2単位で収集記録された証言集や、個人、団体で発刊された証言集など、膨大な量の住民の証言集があります。それを読むことで、撃たれる側、焼かれる側、殺される側、映像に撮られる側の視点から、戦争をとらえ返すことが重要だと思います。肉親を含めて戦争体験者から直接証言を聞くことが、より重要なのは言うまでもありません。

今、沖縄では「琉球弧※3を記録する会」によって、自分の生まれ育った地域の言葉であるシマクトゥバ※4で沖縄戦体験者の証言を記録する取り組みが行われています。米軍によって記録されたフィルムを収集するのも大事ですが、それ以上に、住民の証言をビデオに記録し、残していくことが大切だと思います。一部の専門家だけでなく、多くの市民が自分の肉親の声や姿とともに沖縄戦の証言を記録することによって、それはさらに意義を増していきます。

沖縄戦に限らず、戦争を多角的、総合的に考えるために、米軍や日本軍の残した記録や戦史、将校の手記も読む必要があります。ただ、私としては、より「低い視点」⁽²⁾から見た戦争として、無名兵士や庶民の戦争体験を読むことを一番大切にしたいし、その視点から戦争を考えたいと思っています。

(目取真 俊『沖縄「戦後」ゼロ年』，日本放送出版協会，2005 年，88 ページから 91 ページ。問題作成の都合上，原文の一部を改めた。)

[出題者注]

- ※1 インベット(埋め込み)取材：軍隊が定めた取材規則に従って，記者が兵士と生活をともにしながら軍事行動の現場でおこなう取材。「エンベッド取材」とも呼ばれる。
- ※2 ^{あざ}字：町や村をさらに小さく分けた区域。
- ※3 琉球弧：日本列島南方に位置する奄美群島から沖縄諸島を経て宮古列島，八重山列島に連なる島々からなる地域の地理的総称。
- ※4 シマクトゥバ：島言葉。琉球弧の島々で用いられ伝えられてきた琉球語の言葉。